

2016 3月

OIT Website
<http://www.oit.ac.jp>

およど

ひとことメッセージ

偉大な発見の多くは失敗と
 思っていた現象なのです。
 不安や心配があっても、と
 にかく前進することで多く
 の失敗を体験し、いつしか
 それが成功への架け橋と
 なることでしょう。



工学部 電気電子システム工学科 教授
 前元 利彦 (専攻: 半導体デバイス工学)



CONTENTS

- 卒業生に贈る言葉 ②
- 卒業生特集 ③
- 祝「社会人基礎力育成グランプリ2016」大賞受賞!** ⑥
- 学長表彰・学部長表彰 ⑦
- 食文化のバーチャル体験展示 ⑧



卒業生諸君の門出を祝して

学長 西村 泰志

長年の研鑽の甲斐あって、この度卒業される皆さん
 ご卒業おめでとうございます。皆さんの喜びもさること
 ながら、今まで皆さんを長年支えて頂いたご家族の
 方々に感謝の気持ちを伝えてほしいと思います。

最近のニュースをみると、いくつかの大企業がいろ
 ろな問題に直面し、経営に腐心されている等の報道が
 なされています。また、日銀の「マイナス金利」につい
 て大々的に報道されています。これらは、今まで常識
 であると考えられていたことが、必ずしも常識でな
 いことを意味しています。すなわち、「不確定の時代」と
 言えば良いのでしょうか。

本学の卒業生の多くは、技術者として社会に出られ
 ます。この不確定な時代を技術者として生きていくため

には、常に新しい知識や技術を身に付け、かつ、グロ
 ーバルに活躍できる力を身に付けることが要求されま
 す。特に、20代および30代前半の若いうちにこの力をつ
 けることが必要です。これらの力を付けるためには、与え
 られた仕事に対して情熱をもって取り組むことが必要
 です。そうすることによって、その仕事の面白みが分か
 りますし、それを継続して行く過程で、それに関連した
 仕事あるいはそれ以外の仕事についても視野が広がり、
 次に何をすれば良いのか見えてくると思います。若
 い頃に身に着けた力は、生涯の貴重な財産にな
 ります。

皆さんが社会人として健やかに成長され、
 良き人生を送られることを心より祈念します。



卒業生に贈る言葉

伝統を誇りに謙虚な心で

工学部長 大学院工学研究科長 井上 晋



ご卒業・修了おめでとうございます。

さて、皆さんが学んだ工学分野の技術革新は決して一つの分野の知識だけでは成し得ません。いくら優秀な人でも、自身の力のみで目標を達成するのは難しいものです。新しい知識を修得し、仕事に前向きに取り組むことは当然必要ですが、上司、先輩、同僚、後輩など、さまざまな人の意見を聞き、協力することで目標が見えてきます。幸いにも社会には本学を卒業された諸先輩がたくさんおられます。伝統ある大阪工業大学を卒業・修了したことに誇りを持つとともに、常に謙虚な心で仕事に取り組んでください。皆さんが社会で活躍されますことを祈っています。

成長へのチャレンジを続けよう

情報科学部長 大学院情報科学研究科長 大島 一能



ご卒業おめでとうございます。情報技術は、これからが真の革命時代に入るとも言われ、あらゆる分野で想像を超える発展が続いて行きます。変化に対応できる実力を養い、常に成長へのチャレンジを続けて飛躍してください。皆さんの活躍を願って、3つの励ましの言葉を贈ります。健康に留意して、充実した社会人生活を送ってください。

- (1) 挨拶や対話力など社会人スキルを高めよう。
- (2) 前向きに仕事に取り組み、技術力・実践力を磨こう。
- (3) 組織や業界の状況を知り、目標を描いて前進しよう。

人とのつながりを大切に！ チャレンジしよう！

知的財産学部長 林 茂樹



皆さんご卒業おめでとうございます。大学時代の楽しい思い出を胸に、新社会人として元氣よく羽ばたかれると思います。

社会に出た後常に目的意識を持って、どのくらい真摯に仕事に打ち込み、周りに感謝し、人とのつながりを大切にすることによって、数年後人間としての成長に大きな差が付いてきます。仕事に楽しさややりがいを感じながら、工大で培ったひたむきに学修に励む態度を忘れず大きく成長してください。

「一隅を照らす」人であれ！

大学院知的財産研究科長 小林 昭寛



ご卒業・修了おめでとうございます。

「一隅を照らす」という言葉があります。自分自身が置かれた場で精一杯努力し、明るく光り輝くことにより、結果的には社会全体が明るく照らされるという意味です。自分の持ち場で全力を尽くすことが大事だという考え方です。

これから進む道は人それぞれですが、それぞれが進む道で一所懸命に全力を尽くされることを祈っています。時には苦しいこともあるでしょうが、恐れず、ひるまず、明るく前向きにチャレンジしてください。

強く大きく羽ばたけ工大生

学生部長 西川 出



ご卒業おめでとうございます。

諸君はこの大きな節目にあたって、また来月から始まる新生活に期待を大きくふくらませていることでしょう。

振り返れば、難しい定期試験や課題など見事に克服してきました。また課外活動を経験した諸君は厳しい練習や緊張感のある試合なども乗り越えてきました。これらは大きな自信となったことでしょう。これらの自信を胸に大きく社会へ飛び立ってください。きっとすばらしい未来が待っていることでしょう。

卒業生特集

日本との絆を大切に日中知財業界の懸け橋になりたい



知的財産研究科 知的財産専攻 2年 羅 巍(ラギ)
就職内定先: 磐華法律事務所

充実した大学生活

大学院の講義以外では、毎年、留学生見学会や餅つき大会などの行事に参加したこと。また、台湾の大学との連携で行われた夏期集中講義やJICAのリサーチ・アシスタントとして参加したJAUIP東京夏期集中講義、CASRIP米国知財研修プログラムや人生初のメジャーリーグ観戦などを経験し、この2年間充実した日々を送ることができました。そして、多くのプログラムに参加したことで、たくさんの人々と出会え、良い思い出を作ることができました。

人の倍以上の努力!

日本人の学生が短時間で取り組めるレポートを、私はそれ以上の時間をかけて取り組まなければなりません。周囲から「留学生だから、『ほどほどに』したら?」と言われていたこともありますが、留学生であるからこそ、今日まで努力してきました。その結果、語学力のみならず、論理的な文章力やプレゼン力を身に付けることができた実感しています。

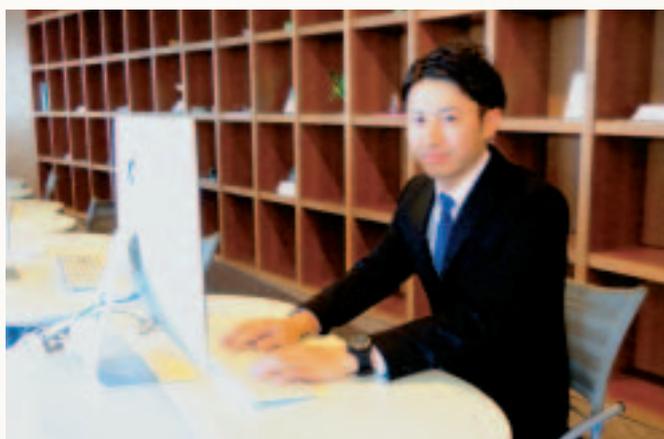


卒業後の5年計画!

目の前にあるチャンスを生かし着々と前進していこうと考えています。法律事務所への就職が内定しており、まずそこで日中知財業務に精通する日本人の弁理士の先生のもとで、秘書業務をはじめ、出願から審判までの経験を重ね、日本のお客様に信頼される弁理士になりたいです。そして、免除資格の有効期限が切れないうちに、日本の弁理士試験に合格したいです。さらに、活動の場を世界に広げるため、5年後米国に留学したいと考えています。



クラブで培ったリーダーシップを武器に業界を引っ張る存在を目指す!!



工学部 建築学科 体育会アイスホッケー部 小田 崇旦
就職内定先: (株)大林組

仲間との絆

主将というクラブの代表として責任ある立場になり、クラブの運営についてより一層、深く考えるようになりました。時には、ミーティングでチームメイトと激しい口論になることもあり、就任当初は本当に自分に務まるか不安な気持ちでいっぱいでしたが、自分が落ち込んでいた時に一緒に悩み、励ましてくれた同期や多くの後輩の存在に支えられ、やり遂げることができました。苦しいときに支え合った仲間たちとの絆は一生の宝物です。

チーム全員で勝ち取ったリーグ優勝

理工系大学の大学生活でクラブ活動に割くことができる時間はほんのわずかです。そんな工大のアイスホッケー部が他の強豪大学と戦っていくために、主将として取り組んだのが基礎練習の徹底とチームの目標統一です。漫然と練習に取り組むのではなく、限られた時間で個人やチームが成長するためにはどうしたら良いのかを考え、本当に必要な練習に注力するよう、部内の意識改革を行い、夜間の氷上練習や厳しいフィジカルトレーニングをチーム全体で乗り越えてきた結果がⅡ部リーグ優勝、そしてⅠ部Bリーグ昇格という成績に繋がったと強く感じています。



挑戦し続ける姿勢

4月から始まる建設業界での仕事では、現場監督として幅広い年齢層の職人の方々と協力し、1つの大きな目標達成のために現場を導く能力が求められます。正直、不安もありますが、新しい生活へ期待の方が大きいです。大学生活やクラブ活動で培ったリーダーシップや自発性を活かし、東京スカイツリーのような、その国や土地のシンボルとなる建築に携わることを夢に精進していきたいと思っています。



卒業生特集

この経験を、次につなげる



工学部 機械工学科 文化会ウインドアンサンブル 大江 明歩
就職内定先: 岡本無線電機(株)

みんなで頑張ったことが、ひとつの結果につながった瞬間

現役最後の定期演奏会が印象に残っています。それまでの演奏会では、集客数が2桁の年もあり、会場はいつも空席が目立つ印象でした。いつか満員にしたい、という思いを抱きながら地域のお祭りや大学行事に取り組み続けました。その結果、最後の演奏会では400人を超えるお客さまにご来場いただきました。舞台上から満員の客席を見た瞬間に、これまでのクラブの歩みと活動を支えてくださった多くの方々を思い浮かべ、胸がいっぱいになり最高に感動しました。

仲間との出会いは宝物

クラブ活動を通して仲間がいることの心強さを学びました。4年間のクラブ活動は、良いことばかりではありませんでした。特に部長となった3年生時には部の運営や人間関係に頭を悩ませる日々が続きました。しかし、それらを乗り越えることができたのは、周りにいつも居てくれた部員たちの存在のおかげです。励まし合い、笑いあい、試行錯誤を繰り返しながら歩んできた4年間。その経験と仲間たちと過ごした時間は、何にも代えがたい私の宝物です。



社会人として活躍することが、恩返し

社会人として活躍することで、これまで様々な面で支えてくださった方々への恩返しをしていきたいと考えています。私は今春から、岡本無線電機に勤めます。新しい環境に戸惑うこともあるかもしれませんが、大学生活で得た経験を糧として、まずは何事にも積極的に挑戦していきたいと思っています。将来、大工大の後輩たちに出会ったときに、胸を張れる社会人の一人であるように精進していきます。



大学生活での経験を生かし、これから生きる



工学部 電子情報通信工学科 応援團團長 榎原 千跡
就職内定先: 日本エレクトロニクスシステムズ(株)

応援團として過ごした時間

私は、大学の4年間応援團に所属していました。応援團の活動を通じて多くの方と携わり、交友関係が大きく広がりました。こうしてできた友人と過ごす時間がとても楽しく、大学生活を彩らせることができました。応援團の宿舎はとても体力を消耗するもので、喉がかすれて声を出すのもやっとの状態になったり、体が震えだすほど筋力を使うこともありましたが、今ではとても良い思い出です。また、その様な苦しいことを乗り越える達成感も知ることができました。まだまだ語り尽くせませんが応援團として過ごした時間は一生忘れない大切な時間です。

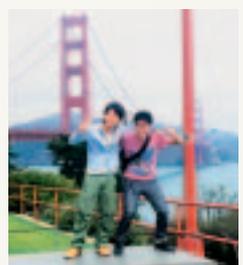
目標を持つということ

4年間の大学生活で、目標をもって自ら動くことの大切さを知りました。自ら動くことで、同じ目標を持つ人と出会えます。その同じ志を持つ仲間と一段と大きな目標を持って行動することで、人と会うことに結びつき、より大きな目標を持ち動くことができます。もちろん、すべての目標が達成できるわけではないと思います。時には自分の力が及ばず悔しい思いをすることもありますが、目標に向けて自己を錬磨した時間は必ず成長に結び付きます。立ち止まって焦燥感を募らせるのではなく、動き出すことの大事さを知れたことは今後大きく役立つと思います。



技術の大きな改革

私は4月から通信システムのメンテナンスを担う仕事に就きます。テレビやラジオなど日々の生活に欠かせないものの電波を滞りなく発信できるようにするための仕事です。こういった仕事の中で、私は大きな技術改革をしたいと思っています。普段はもちろんのこと、災害時でも電波の中継機などがしっかり機能し連絡を取り合えるような環境にしたいです。私の「千跡」と言う名前は、字の通り千の足跡を残してほしいという親の願いが込められています。この名前に恥じないような大きな働きをして、歴史に名を刻みたいと思います。



卒業生特集

絶対に諦めずに努力し続ける



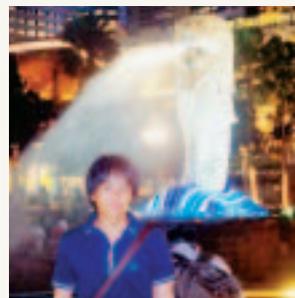
情報科学部 情報システム学科 安永 啓汰
就職内定先:(株)NTTドコモ

ナンバーワンを目指して

大学生活で学んだことは「目標は高く持つ!」です。私は、「旅行会社のホームページのユーザーインターフェースを調査する」というグループワークで、1位を取ることを目標に掲げました。班員同士で衝突することも多々ありましたが、目標を高く設定することで新しい斬新なアイデアが出るようになり、その結果、大差で1位を取ることができました。何かに取り組むときには目標を高く設定し、その目標に挑戦し続けてください!

限りある学生の時間を謳歌せよ!

大学生活4年間は、あっという間に過ぎ去ります。学生なので勉強を頑張るのは当たり前ですが、時には息抜きも必要です。私はこの大学生活4年間で国内海外合わせ旅行に20回以上行きました。その中には前日に旅行を決め、翌日にはレンタカーを借りて旅行に行ったことも…!自由に旅行に行けるのも大学生活が最後です。思う存分、学生生活を謳歌して下さい。



枠にはまらない就職活動

本田技研工業の創業者である本田宗一郎氏が「チャレンジして失敗を怖れるよりも、何もしないことを怖れる。」という言葉を残しています。まさに私の就職活動は、この言葉通りに失敗を怖れずに挑み続けました。一般的な就職活動の枠にはまらずに、何も着飾らない「1人のちっぽけなチャレンジャー」として活動を行いました。その結果、20社近くから内定を頂き、縁あって今の内定先に就職することになりました。私は、一人ひとりが違って良いと考えています。就職活動では、ありのままの自分でぶつかってみてください。絶対に、その姿に共感してくれる人がいます!



未来の自分を作るために、今何が出来るか



情報科学部 情報ネットワーク学科 伊原 麻子
就職内定先:NEC[日本電気](株)

できる人ってどういう人か

この4年間で学んだことの1つです。私は周りの人たちに恵まれました。浪人時代の仲間をはじめ、同じ学部の友達や研究室の先輩、アルバイト先の先輩、企業のインターンシップ先の社員様。そこで輝いている人を見つけては憧れ、お手本にした人が何人もいました。気づいたことは、みんな何に対しても影で努力をしていること。たくさん経験を積んで、成果を出しているのだと思います。大学生活は間違いなく人生で一番自由な時期です。そして自分の人生を決める大きな分岐点です。みなさんも精一杯有意義な4年間にしてください。

就職活動の成功の鍵

それは、一期一会。就職活動でたくさんの人と会うことで、その人の魅力や強みを客観的に感じることができ、人を通じて学ぶことの大切さを実感しました。同時に自己分析をするうえで、自分は他人からどう見られているのかなど、新たな発見と成長がありました。『常に自分と向き合うことに全力を尽くし、志望先へ強い思いを伝えるコミュニケーション力を身につけること』が成功へと導きます。自信がないなら、試せばいい。持っていないなら、身につければいい。就活は自己成長の場だと思います。欠けていると思うスキルを伸ばすチャンスで溢れています。そのチャンスをつかめば、可能性もさらに増やせるはずですよ。



私の夢はキャリアウーマンになること

社会に必要とされる輝く女性になりたい。ずっとそう思っています。いつか「伊原さんだから任せられる」そんな素敵なお言葉を頂けるような、立派に貢献できる人。そんな人に憧れています。日頃から心がけていることは、「人前では常に笑顔でいること」です。4月からは、第一志望の会社の営業職として社会へ飛び出します。これからも、笑顔をやさす前向きでいることでチャンスがつかめるのだと信じて、頑張っていきます。



「社会人基礎力育成グランプリ2016」全国決勝大会で大賞を受賞!

「社会人基礎力育成グランプリ2016 全国決勝大会」(社会人基礎力協議会主催・経済産業省共催)が2月22日、拓殖大学文教キャンパス(東京都文京区)で開催され、本学チームが6地区の代表8チームの頂きとなる大賞(経済産業大臣賞)を受賞しました。本学の大賞受賞は、今回を含めて3回目を数えます(2009年、2013年に受賞)。

このグランプリは、経済産業省が提唱する「前に踏み出す力」「考え抜く力」「チームで働く力」の3つの能力などで構成される「社会人基礎力」を、大学のゼミ・研究・授業等を通じてどれだけ成長させたかを競うものです。

本学チームは、「未来エネルギー機器開発で学生チームが世界の強豪に挑戦 一社会に通用する開発部隊への成長」と題して発表。工学部電気電子システム工学科の大森英樹教授が率いるパワーエレクトロニクス研究室に所属する大原申也君(MED1)、北本拓也君(MED1)、金子佳市君(E4)が、「未来エネルギー機器の国際開発コンテ

スト」(米国電気学会主催)に同研究室の学生たちと共に挑戦した日々を語りました。企業の製品開発と同等レベルを要求されることに苦しみ、迫る期限に幾度もくじけそうになりながら、メンバーの発想力を結集し、互いに励まし合いながら突き進めた行動力で世界3位に輝いた成長をアピールしました。

審査員からは「授業での学びを実社会での活用に結びつけた」「難しい技術の話をはっきりと分りやすく伝えた」「審査員の質問への受け答えが柔軟で素晴らしい」「審査員の質問への受け答えが柔軟で素晴らしい」などと高い評価を得られました。

表彰式でリーダーの大原君は「研究室のみんなの協力や努力で取れたグランプリです。これからも皆さんが乗る電気自動車に私たちの開発したワイヤレス充電装置を提供できるように頑張っていきます」と開発チームの仲間への感謝も語りました。

このたびの快挙が、ご卒業される皆さんやご修了される皆さんの門出に華を添えてくれました。新たな道で大活躍されることを期待しています。



大賞の本学チーム。
左から北本君、大森教授、大原君、金子君



練習の成果が出たプレゼンテーション

受賞者決定!建築学科、空間デザイン学科卒業展示会



A科最優秀作品賞 相見 良樹「ろう」

工学部建築学科と空間デザイン学科がそれぞれ卒業研究展示会を行いました。建築学科は2月19日～21日、大阪港にある「海岸通ギャラリー・CASO」で学外展示会を開催し、卒業設計作品は図面と模型を、卒業研究論文は要旨をまとめたポスターを展示しました。

空間デザイン学科は2月20日～28日、大宮キャンパスのデザイン工房(2号館1階)で卒業作品展を開催し、大学院生や4年生の力作を一堂に展示しました。

審査の結果、次のとおり受賞作品が決まりました。

建築学科

- 最優秀作品賞 相見 良樹(A4) 「ろう」
- 最優秀プレゼンテーション賞 尻無濱 千尋(A4) 「自由表面における回転成分推定法の提案と小規模微動アレイデータへの適用」

空間デザイン学科

- 最優秀賞 持井 英敏(W4) 「百年地図。」
- 論文賞 横井 忍耶(W4) 「高知市域で想定される地震動に対する木造軸組構法建物の応答に関する研究」



W科最優秀賞 持井 英敏「百年地図。」

カウンセラーのひとり言 人間万事塞翁が馬

カウンセラー 大谷 真弓

最終学年の皆さま、ご卒業おめでとうございます。正規の年数で卒業できた人も、何年か余分に学生時代を過ごした人もいますね。後者に当たる人たちは、わざわざそんなことを蒸し返さなくても、と思うかもしれませんが、学生時代を余分に過ごした時間は、後から考えるともしかすると貴重な時間だったと思えるかもしれませんよ。

かく言う私も、大学受験に失敗して浪人時代を過ごした経験があります。当初は何を食べてもおいしいと感じず、体も鉛のように重かった覚えがあります。そんなある日、「人間万事塞翁が馬」

という恩師直筆のはがきが届きました。人生とは、何が悪いことか、簡単には分からない、不幸なことが幸福に転じたり、幸福だと思っていたことが不幸に転じたりする、という意味ですね。信頼する恩師からの言葉ということもあって、そのはがきを見ているうちに、自分の状況を俯瞰的に捉える目ができて少し気が軽くなったことを思い出します。

大学生活での様々な経験は、今後どのように生かされていくでしょうか。皆さんのご健闘を心より祈っています。

心理学アラカルト コラージュ療法

カウンセラー 山下 彩

『コラージュ(collage、フランス語の「糊付け」という意味)』という言葉、知っていますか?もとはピカソらにより始まった表現方法でした。これを心理療法に取り入れたものがコラージュ療法。やり方は簡単で、雑誌の写真を切り取り、自由に貼っていただけます。絵を描くより手軽、材料も手近なものでできるので現在幅広く活用されています。

このコラージュ、一人で好きなときにできるのもいいところです。ルールも理屈もありません。いらなくなった雑誌などの中で目に留まったものを切り取って、画用紙やコピー用紙に貼っていただけ。あなたのセレクトと配置で一期一会のアートができます。部屋の整理ついでに、遊び感覚で試してみてください。いろいろと気づくこともでき、ストレス発散にもなりますよ。

知的財産専門職大学院・知的財産学部が合同企業懇談会を開催

知的財産専門職大学院と知的財産学部は12月21日、大阪センターにおいて合同企業懇談会を開催し、企業関係者47人を含め約120人が参加しました。この懇談会は、企業や特許事務所の知的財産部門や採用担当の方々をお招きし、本学の教育特色や学生の活動成果報告などをPRする機会となっています。

当日は、学生の司会進行で行われ、学部生が特許事務所や政府機関でのインターンシップ、日頃の研究活動や課外活動の取り組みについて発表しました。特に、シリコンバレー（アメリカ）での国際PBL活動についての発表が参加者の関心を集めました。また、大学院生は、台湾の特許事務所でのインターンシップやワシントン大学付属の知的財産法研究機関「CASRIP」での研修について報告がありました。

活動報告会終了後は情報交換会が行われ、学生たちが企業の方々に話しかける積極的な姿が見られました。

参加した学生からは「企業の知的財産部門の方と話ができる貴重な機会となった」「多くの企業の方から個別に話が聞くことができ、自分の将来を考えるうえで有意義な経験となった」との感想が寄せられました。



熱気に包まれた情報交換会

留学生歓送会 ～OITを巣立つ留学生を祝って～

今春本学を卒業・修了する留学生12人を送る「留学生歓送会」が3月14日、本学研修センターで開催されました。会場には学長や学部長・研究科長をはじめ、大学生生活でお世話になった多くの先生方や後輩留学生など約120人が集まり、学位記授与式に先立って本学を巣立つ留学生の卒業・修了の門出を祝いました。歓送会では、日本語での授業や論文発表に苦しんだこと、留学生見学会や城北祭模擬店での出店、もちつき大会など、多くの苦楽の思い出を振り返り、これからの夢や抱負などを語り合いました。

このたび卒業・修了する中国・サウジアラビア・インドネシア・タイの留学生は、4月から母国や日本で就職する者、さらに日本で進学する者など、それぞれ新しい道を歩んでいきます。本学で学んだ知識や技術を生かして活躍されることを期待します。



楽しかった「留学生見学会」

食文化バーチャル体験展示 ～みんなくで活躍～

国立民族学博物館（2015年3月連携協定締結）特別展「韓日食博」2015年8月27日～11月10日に、情報科学部「バーチャルミュージアム学生プロジェクト」が、拡張現実感や人工現実感などの最近技術を用いて、食文化の仮想体験という難しいテーマに取り組みました。3年次生～大学院生を含む28人の学生プロジェクトメンバーが、自分たちがまず、楽しめる作品づくりを心掛け、2015年4月から約5ヵ月かけて、8つの作品を完成させました。

同時に、展示期間中の毎週日曜には制作した学生が自ら説明員として参加し、作品のコンセプトを熱心に伝えました。結果として、子供から年配者まで延べ約3万人の来館者に、大きな感動を与えることができ、学生たちは作品づくりからPRまで一貫で取り組み、博物館関係者との妥協を許さない仕様決定の議論、メンバー同士の意志疎通、来館者とのコミュニケーションを通して、貴重な経験をし、大きく成長しました。



おせちに
願いを込めて

奨学金 NEWS

ご卒業おめでとうございます。在学中、日本学生支援機構の奨学金を貸与されていた方々は、一社会人となられたことにより、貸与終了後の約半年後から、いよいよ返還が始まります。返還が滞ると、場合によっては延滞金が加算されたり、不利益が生じます。「返還のてびき」をよく確認しスムーズな返還を心がけましょう。

皆さんが計画的に滞りなく奨学金を返還されることが、新たな後輩奨学生を支援してゆくことに繋がります。

工大流就職支援

卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。企業等への就職、大学院への進学等、卒業後の自分自身の進路を真剣に考え、悩んだ1年間、本当にお疲れ様でした。今年度は企業の採用試験が8月に変更になったため、就職活動と卒業研究とが重なり、大変だったのではないのでしょうか。大学院に進学された方は、研究はもちろんのこと、語学の習得や海外短期留学等に積極的にチャレンジし、2年後の就職活動に向けてしっかりと自分に磨きをかけておいてください。就職された方は、4月からいよいよ社会人ですね。就職課から皆さん

就職 NEWS Vol.24

へ一言。「死に物狂いで頑張ってください。」

これまでの開学以来10万人以上の卒業生が、各職場で死に物狂いで頑張ってきました。そのおかげで、本学には、毎年数千社という全国の企業・団体から求人をいただき、採用していただいています。まさに、今後の大阪工業大学のブランド力を高め、後輩への新たな道を切り開くのは皆さんお一人おひとりの頑張りなのです。今後は、後輩たちの進路について、ご支援・ご協力いただけることと期待しています。最後に、皆さんの新天地でのご活躍を祈念いたします。